

【プログラム紹介】

パソコンによる土地家屋調査士プログラム

Personal Computer Program for Land and House Surveyor

郡 司 健 一*
Ken-ichi GUNJI

1. まえがき

土地家屋調査士業務は、地積測量図面の作成、建物図・各階平面図面の作成、申請書等の各書類の作成と大きく3つに分かれている。そこで、既に当社で開発し実際に使用されている測量システムをベースに、建物図・各階平面図面、申請書等の各書類の作成機能等を追加し、土地家屋調査士プログラムとして開発したので以下にその内容を紹介する。

2. プログラム概要

(1) 地積測量図面の作成

現場で観測した野帳データからトラバース計算をし、各観測点の座標値を求める。この座標値をもとに交点計算、面積分割点計算、隅切計算、面積計算等をし図化データを作成する。図化データはファイルに保存するので、随時、作図することができる。また、縮尺の変更、図形の回転も容易である。作図は、プリンタで座標点のプロットと求積表を出力するものと、プロッタによる自動作図の2種類がある。

(2) 建物図・各階平面図面の作成

各階の建物形状を入力し床面積を求める。作図は、プリンタで建物形状のプロットと床面積を出力するものと、プロッタによる自動作図の2種類がある。

(3) 各書類の作成

ワープロにより申請書等の書式を作成してあるので、日付、住所等の必要項目を入力する。

- 共同担保目録
- 上申書

- 委任状（土地・建物）
- 建物所有権証明書
- 建物引渡（取毀）証明書
- 登記申請書（土地・建物・区分建物）

3. 特徴

- スクリーン・エディタ機能により、データの入力、修正が簡単である。
- トラバース計算の各観測点を画面に描画するので、目で座標点の確認ができる。
- プリンタによるプロット機能があり、座標点（最大100点）のチェックができる。また、グリッドのプロットも可能である。
- 作図用紙の作成機能（地積測量図面、建物図・各階平面図面）により、白紙の指定用紙に枠線と作成者、申請人等の項目を同時にプリンタで印字するので、規定の用紙にタイプライタ、ワープロで印字する場合によくある、文字ずれのようなことがない。
- 建物図・各階平面図面の作成時にマウスを利用し文字の移動、引き出し線処理ができる。

4. あとがき

本システムの座標データ管理方法は、ハッシュ法を応用したデータベースを利用しており、土木学会第10回電算機利用に関するシンポジウムで発表した内容である。

ベースとなった測量システムも大型ドラフタによる座標点のプロットを始め機能の拡張をしている。今後も土地家屋調査士システム、測量システムとも改良していく意向である。

* ㈱システムエンジニアリング技術部技術課

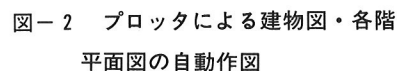
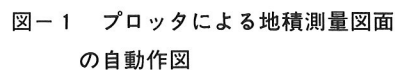


図-3 ワープロ機能による土地分筆
登記申請書